

令和5年度 ときわ会 活動の重点と重点達成の方策

変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代と呼ばれる現代社会において、自ら考え、主体的に行動し、社会を変革したり、新たな価値を創造したりする力の育成が強く求められている。また、ウイルス禍の影響で、まだ先と思われていたGIGAスクール構想が瞬く間に普及した。このような急激に変化する社会において、求められている力を育成するためには、我々、教職員も自ら考え、主体的に行動し学び続けていくことが極めて重要である。

ときわ会では令和4年度より「ときわセレクト研修」をスタートさせ、会員の主体的な研修を推進してきた。会員の自主的な企画による研修は、年間30回以上開催された。このことは、ウイルス禍においても、一人一人の会員が自ら考え、主体的に「学びたい、研修したい」と求めていることの証であり、研修団体としてのときわ会の存在価値を改めて確認することができた。今後も、ときわ会として、会員一人一人のニーズに応じた研修を推進していかなければならない。

また、ICTの活用によるオンライン研修は、時間や空間の制限を大きく取り除くとともに、目的に応じた対面研修の必要性を鮮明にし、研修会の意義や方法を見直す機会ともなった。これによって、ときわ会のどの活動においても、目的に沿った様々な内容が工夫された。その中で、対面による意見の交流、情報交換は、互いの関係性を深め、研修の効果や会員の所属感を大きく高めるといふよさを再確認することができた。今後も会員同士のつながりを重視し、交流機会を確保していく必要がある。

一方、学校には、多様化する社会への積極的な対応も求められている。中教審が答申した「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、個別最適な学びと協働的な学びの実現が示された。そこでは、多様な子供一人一人の興味・関心等に応じ、意欲を高めやりたいことを深められる学び、多様な他者と協働した探究的な学びなどの重要性が謳われている。ほかにも、暴力行為やいじめの問題への対応、不登校児童・生徒への支援、特別な支援を必要とする児童・生徒への対応など、多様な子供に対する丁寧な支援が、より一層求められている。これらの変化に対応しながら、目の前の子供に必要な力を付けていくため、会員は常に最新の知識を基に、教職員としての資質・能力を高めようと努力している。このような会員に対してときわ会は、研修の機会をさらに充実させる必要がある。そして、ときわ会は、新しい時代を見据え、これから求められる教育の実現を目指して学び合う組織とならなければならない。

以上のように、自ら考え、主体的に行動する力がこれまで以上に求められる社会において、未来を担う子供たちの資質・能力を育成していくためには、会員一人一人がより主体的に研修や親睦に関わることを期待される。このような会員のよき伴走者となり、一人一人を支援していくことができるよう、令和5年度のときわ会は、**新しい時代の教育に対応し、自らを高め続ける会員一人一人を支え、共に歩むときわ会**を基本方針として、着実な実践を力強く推進する。

【ニーズに応じた研修の推進】

この数年の新型コロナウイルス感染防止の経験を基に、令和4年度の研修活動は、ほぼ計画通りに進め

ることができた。オンラインの活用については、技術的に確立するとともに、そのよさについても、広く認識されるものとなった。今後の研修においても、対面とオンラインのそれぞれのよさを活かし、目的、ねらいを明確にした上で運営方法を工夫しながら研修を推進していく。

また、前述したときわセレクト研修は、令和5年度で実施2年目に入る。希望する会員が研修を企画・運営する形を取り、全県の会員はもちろん、会員以外の参加も多く見られた。令和6年度までをパイロット期間としており、今後、研修の効果についても検証していく。

これらの方針の下、これまで培ってきた授業力をさらに向上させる研修と共に、学校が直面している生徒指導や教育相談等の課題解決に資する資質や指導力を高める研修、各教科等におけるICTの効果的な活用に関する研修、特別支援教育に関する研修に力を入れる。

これらのことから、今年度は、**「会員一人一人のニーズに応じた多様な資質や指導力を向上させる研修の推進」**を活動の重点として位置付け、会員一人一人の主体的な研修への取組を促す。

【一人一人の自己実現の支援と組織の活性化】

ときわ会員は、目の前の子供の可能性を最大限に伸ばすことができるよう、自らの資質や指導力の向上のために日々の努力を積み重ねている。また、教職員としての仕事に誇りをもち、それぞれのライフステージに応じた、さらなる自己実現に向けて着実に歩みを進めている。

ときわ会は、これらの会員一人一人の思いや願いを把握し、計画的に人材の育成を図ってきた。今後も、会員一人一人の自己実現を多面的に支援し、会員の充実感や達成感を高めていく。さらに、若手年度や少数の校種・職種の会員、自立会員等に対して、様々な研修機会を提供したり、チャレンジすることを促したりして、多様な人材の育成を一層推進する。

また、これまでときわ会が大切にしてきた会員の交流による互いの資質・能力と意欲の向上を目指し、一人一人がより主体的に活動に参画できるよう、活動内容や働き掛けを工夫していく。これらの取組による人材育成と各組織の活性化が、ときわ会の魅力を一層増していくことにつながる。

これらのことから、今年度は、**「会員一人一人や各組織への支援による計画的な人材育成と組織の活性化」**を活動の重点として位置付ける。

【研修や活動の情報公開等を通じた開かれた活動の推進】

ときわ会は、会員以外にも継続的に研修機会を提供し、広報誌やホームページ等による広報活動を広く行ってきた。昨年度から始めたときわセレクト研修では、会員以外の参加はもちろん、研修を企画する側としても、会員以外の教職員が活躍する機会も見られた。また、各会員がそれぞれの所属において、会員であるかないかに関わらず、ときわ会の研修を周知したり、研修で得たことを紹介したりする様子も見られた。今年度もより開かれたときわ会を目指し、研修機会の提供や広報活動等を積極的に行っていく。会員以外の教職員が研修に参加することにより、新たな考え方や知見が加わり、会員にとっても有意義な研修となる。さらに、会員内外の交流が生まれ、ときわ会への理解が深まることが期待できる。

また、個人との交流はもちろん、これまでどおり行政や各種団体との連携も推進していく。

これらのことから、今年度は、**「研修や活動の情報公開と発信、ネットワークの拡充を通じた開かれた活動の推進」**を活動の重点として位置付ける。

【ときわ会員としての志の再確認と新たな歩みの構想】

今年度ときわ会は、創設 150 周年の大きな節目を迎える。全会員で 150 年の歩みを振り返り、ときわ会員に受け継がれてきた志を再確認するとともに、今後の自らの歩みについて、希望と展望をもつ機会としたい。この周年事業をより充実させ、実りあるものとするため、事前活動として全県での会員の交流を促し、「真価を問う問い」について意見交換を行う。また、支部や年度でも、「真価を問う問い」について、それぞれの持ち味を發揮しながら取組を進める。これらにより、校種、職種、経験等が異なる会員が相互につながりながら、支部や年度の結束を一層強固にし、150 周年記念事業とその後のときわ会の在り方について、全会員の思いを高めていくことをねらう。この 150 周年記念事業は、記念式典当日で終わるのではなく、今後のときわ会の新たな歩みの第一歩としたい。

これらのことから、今年度は、「150 周年記念事業を契機とした、ときわ会員としての志の再確認と新たな歩みの構想」を活動の重点として位置付ける。

以上から、次の四つの重点及び達成の方策を設定し、ときわ会全体を挙げて取り組んでいく。

I 活動の重点

- | |
|--|
| <p>重点 1 会員一人一人のニーズに応じた多様な資質や指導力を向上させる研修の推進</p> <p>重点 2 会員一人一人や各組織への支援による計画的な人材育成と組織の活性化</p> <p>重点 3 研修や活動の情報公開と発信、ネットワークの拡充を通じた開かれた活動の推進</p> <p>重点 4 150周年記念事業を契機とした、ときわ会員としての志の再確認と新たな歩みの構想</p> |
|--|

II 活動の重点と重点達成の方策

重点 1 会員一人一人のニーズに応じた多様な資質や指導力を向上させる研修の推進

会員が自らを見つめ、経験年数や職務に応じて、これから必要と考える資質や指導力を高めるため、主体的に研修を企画したり、参加したりできる研修システムを継続し、新しい時代の教育に対応した会員の実践的指導力を向上させる。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、これからの社会で求められる力を育成する授業力を高める研修を推進する。
- (2) 生徒指導や教育相談等、学校が直面している課題を解決するための資質や指導力を高める研修を推進する。
- (3) ICT の効果的な活用による情報活用能力の育成や、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指し、新しい時代の授業や教育活動に対応した研修を推進する。
- (4) 特別支援教育の充実を目指し、適切な教育課程を編成し、一人一人に応じた合理的配慮を一層提供できるよう、特別支援教育に関する研修を推進する。

重点 2 会員一人一人や各組織への支援による計画的な人材育成と組織の活性化

会員一人一人が自らのライフステージに基づいて、主体的に取り組んでいけるよう支援するとともに、支部や年度、職種等のつながりを深める活動を継続的に支援する。また、会員が学びやすい環境や活躍できる場を整え、人材育成を計画的に進める。

- (1) 支部長及び校園長会員が、会員一人一人の現状を丁寧に把握し、会員のさらなる自己実現を支援するとともに、各組織で活躍できる場を整える。
- (2) 教育研究発表会、ときわスーパーティーチャー、ときわ教育賞・ときわ教育奨励賞、各種論文の執筆等の活動を通して、各地域や分野の中核となる人材を計画的に育成するとともに効果的な活躍の場を整える。
- (3) 若手会員や少数の職種・校種の会員、自立会員等への支援の充実を図り、会員が学びやすい環境や活躍できる場を整え、相互の連携と組織的な活動を推進する。
- (4) 会員がより主体的に活動に参加できるように、諸活動の方法を工夫するとともに、会員一人一人のアイデアを活かしたり、会員が提案・実践したりできる機会を整える。

重点3 研修や活動の情報公開と発信、ネットワークの拡充を通じた開かれた活動の推進

ときわ会の研修や活動に関わる情報公開と発信を、様々なメディアを通して積極的に推進する。また、様々な機関とのネットワークを拡充させ、会員以外への研修機会の提供や、広い実践交流を通じた活動の充実を図る。

- (1) 研修会等において会員以外が講師、情報提供、発表者として参加する機会を設けたり、教育関係者以外の講師を招聘したりして積極的に会員以外との交流を推進する。
- (2) ときわ会ホームページや「エデュコにいがた」、SNS（LINE）等による情報発信を推進する。
- (3) 行政機関、県内外の諸大学、教育関係諸機関、公益財団法人新潟教育会等の団体との交流を深め、連携を推進する。

重点4 150周年記念事業を契機とした、ときわ会員としての志の再確認と新たな歩みの構想

150周年記念事業への様々な取組を契機として、150年の歩みを振り返り、ときわ会員に受け継がれてきた志を再確認するとともに、今後のときわ会員一人一人の成長へとつなげる。会員一人一人の参画意識を高めて記念式典に臨めるように事前活動等を展開し、会員が自分にとってのときわ会の価値や自らの未来をどのように描いていくのかを改めて考え、それぞれの新たな歩みの第一歩とする。

- (1) 150周年という節目を祝うとともに、会員一人一人にとって価値ある記念式典となるよう、記念事業実行委員会を中心に記念式典への準備を進める。
- (2) 現職会員一人一人が、事前活動として「真価を問う問い」について考えたり、意見交流したりすることを通して、記念事業への参画意識を高めるとともに、自らの教職員としての在り方を見つめ直し未来を展望する機会とする。
- (3) 150周年という節目を迎えるに当たって、ときわ会本旨に立ち返るとともに、これからのときわ会の在り方を考える機会とし、ときわ会の新たな歩みを構想する。